

# 令和4年度学校自己評価:重点目標、具体的方策、評価一覧

資料1

香川県立観音寺総合高等学校

分 掌	今年度の重点目標	具体的方策	評価	
			10月	年間
総務部	PTA活動の活発化を図る。	研修旅行等の行事で多くの保護者がPTA活動に参加していただくように呼びかける。PTA日より、HP等で広報を行う。	3	3
教務部	行事や学校運営に関する諸問題等を整理・調整して円滑な学校運営を進めて行く。	行事や学校運営に関する事項について、学科、学年団及び各分掌と連絡・調整を行い、ICTを活用して円滑で効率的な学校運営を行う。	2	3
教育研究部	ユネスコスクールとしての取組を充実する。	SDGsを意識させながら、各教科の学習内容や生徒の活動内容を工夫する。	3	3
生徒指導部	学校生活を営む上での基本的生活習慣の育成	服装の整備(頭髪・装飾品・化粧品を含めた指導)、時間を守る。(始業・授業遅刻をなくす)	2	1
特別活動部	主体的に活動に取り組み、今後の学校行事や活動についての見通しを持てる生徒の育成	各活動に生徒が準備・片付けや実践に取り組む機会を増やす。生徒会役員・監事を中心に企画案・行事内容の改善案を自分たちでも考える機会を増やす。	2	3
進路指導部	生徒の進路設計を支援する進路指導の工夫	生徒の進路希望を考慮しつつ、業者やハローワークとの連携を図り、各種のガイダンス・説明会を適宜実施する。また、生徒の進路意識が高まるように、担任と進路指導部との情報交換を行い、進路	3	3
人権・同和教育部	校内人権・同和教育の充実	人権・同和教育LHR指導案の改訂を進める。(相手の気持ちを尊重し、互いの違いを認め合う意識を高める。生徒が活動できる場面を導入)	3	3
教育相談部	支援を必要とする生徒に対し、校外で連携して取り組む。	支援を必要とする生徒について、保護者の方・担任の先生・SC・SSWと連携し、課題改善に努める。	3	3
保健環境部	自己の健康管理を適切に行う。	健康診断後の事後措置を適切にとれるように丁寧な指導を行う。関係する職員や生徒へ働きかけ、保健管理の徹底を図る。	2	3
教育情報部	ICTを活用して、授業展開を行ったり、校外へ情報を発信させたりする。	全職員がICTを活用した授業を行えるように、環境を整備する。	3	3
事務部	学校施設・設備の安全性向上	日常点検により危険・不良箇所を早期発見し、修繕・改善により安全性を向上させる。	3	3
1年団	1 基本的な生活習慣の確立 2 自ら進路を選択できる能力の育成	1 あいさつの励行や遅刻・欠席を少なくさせ、服装等ルールを守る態度を身に付けさせる。 2 産業社会と人間、LHRや授業を通して自らを客観的に理解し進路について調べ、選択できる能力	3	3
2年団	進路に応じた学力を身につけさせ、進路選択に向けて自分で考え、行動する力を養う。	集中した授業態度、提出物の徹底、家庭学習の習慣化等で進路に応じた学力を身につけさせ、進路選択へ向けて前向きに取り組めるようにする。	3	3
3年団	進路目標に向かって努力を続けられる生徒の育成と社会人としての礼儀や言動を身につけさせる。	自分を知り、進路について調べ進路を確実に決定していくのと同時に落ち着いた言動がとれるように指導していく。	3	3

分 掌	今年度の重点目標	具 体 的 方 策	10月	年間
国語	基本的な語彙や常用漢字を習得する。	定期テストや実力テスト、小テストを通して、語彙や漢字の習得を目指す。	2	2
地歴・公民	知的好奇心を喚起し、基礎学力の定着と課題を探究する能力の増進を図る。	多様なメディアにより知的好奇心を喚起し、講義形式で基礎学力の向上を図るとともに主体的な学びにもつながるよう促し、問題解決能力の育成を図る。	3	3
数学	学習に取り組む姿勢を身につけさせ、基礎学力の定着を図る。また、上位層の学力向上を目指す。	生徒の理解が深められるように、ICT機器を活用した授業を行い、基本事項の定着を目指した課題や小テストを実施する。課題においてもタブレットを有効に活用させる。また、上位層への個別指導を行う。	3	3
理科	自然に対する関心を高めるとともに、基礎学力と科学的な思考力を身につけさせる。	授業への取り組みを徹底させ、基本事項の定着を目指した課題や小テストを実施する。また、上位層への個別指導を行う。	3	3
保健体育	体力の向上と生涯スポーツへの取り組みの意識づけを図る。	体づくり運動を工夫したり、一貫した指導体制の中で、自ら考える力の養成や自主性を重んじ、生涯スポーツに通じる得意種目をつくらせる。	3	3
芸術	ICTを積極的に活用し、より多面的に実技や鑑賞に取り組ませる。	生徒がタブレットを使い、作品制作過程の記録や実技の動画撮影などをし、学びを深められるような授業づくりを行う。教員側もICT機器を効果的に活用し、生徒の理解が深まるよう工夫して授業を行う。	3	3
英語	新しい学力観に基づき、主体的で実践的なコミュニケーション能力を育成するための、効果的な教授法や評価方法の確立および教材の開発に努める。	ICT機器の効果的な活用についての研究を進め、研究授業などを通して、教員同士が学び合えるようにする。また、どの科目においても、「読むこと」と「書くこと」におけるパフォーマンステストを、年間に1回ずつ以上実施することとする。	3	3
家庭	家庭生活を運営する上で必要な基礎知識・技術を身につけさせる。また、専門教科では食のスペシャリストとしての知識や技術を身につけさせる。	目標に応じた課題を与えたり、実習を行い主体的に取り組む姿勢を育成する。また、実技テストや検定を通して目標を達成させる。	3	3
商業	資格取得に取り組ませる。	商業に関する検定試験にチャレンジさせ、より多くの資格の取得を目指す。	2	3
情報	情報活用の実践力を養う。	情報機器、アプリケーションソフトを自由に扱うことで、基本操作を理解する。	2	3
福祉	福祉に関する基礎的な知識・技術を身につけさせるとともに、正しい福祉観や倫理観を養う。	新聞やニュース、事例などの活用を通して、福祉に興味関心を持たせる。また、演習や実習を多く取り入れることで、実践的・体験的に知識や技術の習得、福祉の心の育成を図る。	3	3
機械科	機械に関する基本的知識や技術を身につけさせるとともに社会に貢献できる力を身につけさせる。	授業やものづくりに対して意欲的に取り組ませ、検定や資格取得へ挑戦させる。	3	2
電気科	ICTを活用した授業や資格学習を通して、情報リテラシーやスキルを伴った生徒の育成を図る。	ICTを活用した教育スキルやリテラシーを備えた教員となれるよう、オリエンテーションや他教員の授業参観・研究を実施し、生徒の主体的・対話的な学びを促進する。	3	3
電子科	社会人として必要な基礎知識・技術を身につけさせる。また、専門的な知識や技術・技能を身につけさせる。	各学年の目標に応じた課題や実習を行い、主体的に取り組む姿勢を育成する。生徒各自が資格試験に挑戦し、自分を伸ばすことに心がけるよう指導する。	3	3
総合学科	SDGsについての知識を深め、積極的に学校や地域をよりよくするために行動できる生徒を育成する	産社や探究活動に積極的に参加し、身の回りの課題や問題点を見つけ、それを解決するための方法を考える姿勢を身につけさせる。	3	3
いじめ	いじめの未然防止ならびにいじめ問題に対しチームで速やかな対応をする。	学校生活に関するアンケートや面接週間をはじめとし、いろいろな場面で生徒の変化に気づくようにする。	3	3